

コロナと学び

「9月入学」の是非 識者に聞く

元文部科学事務次官

前川喜平さん

千葉大教育学部副部長
同大教育学部附属中学校校長

藤川大祐さん

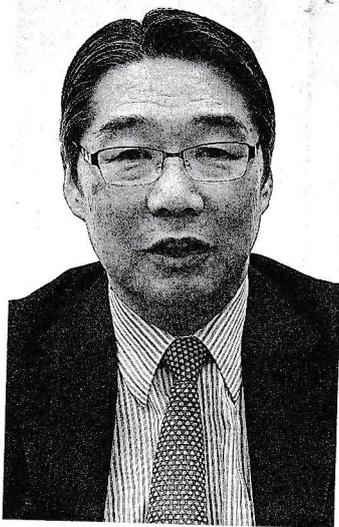
いまじゃないだろう。

「コロナへの対応として学年の始まりを9月にずらしては」という記事を読んだとき、さう思った。「学校生活が休校のために減っていか」とツートした高校3年生の気持ちにはわかる。だが、それに知事たちや官邸が乗っかるのは情けない。世紀の愚策だと思う。

いま重要なのは、学校に行けていない子どもたちの学びの権利だ。オンライン授業を可能にしたから感染防止の対策を尽くし、学校をいかに早く再開するかに力を注ぐべきだ。

政府は今月、緊急事態宣言を延長する際、博物館や美術館、図書館、公園について全国で条件付きでの再開を認めることが、ならば学校が先だろう。

小中高校が9月入学・始業となること、いまの1年生を9月まで待たせることになり、7歳5カ月で入学する子が出てくる。いまの小中高校生のうち9月1日以前に生まれた子は、16歳で中学を、19歳で高校を卒業して大学受験は1浪状態になる。また、新小学1年生には9月までに6歳になる子も含まれる。いまでも早生まれと遅生まれの発達の差の問題があるのに、17カ月の月齢差を乗り越えられるのか。さらに、いま幼稚園や保育園の子は、誕生日が9月1日以前が2日以降が小学校入学時に別れ別れになってしまふ。こうした問題を保護者は納得するだろうか。しかも全ての学校がす



1955年生まれ。東京大学卒。旧文部省に入省、初等中等教育局長などを歴任。2017年、天下り問題の責任をとり退職。同年、加計学園をめぐる問題で「行政がゆかめられた」と証言した。現在は講演や執筆活動のほか、自主夜間中学の講師も務める。

今ではない 早期の学校再開へ力づけ

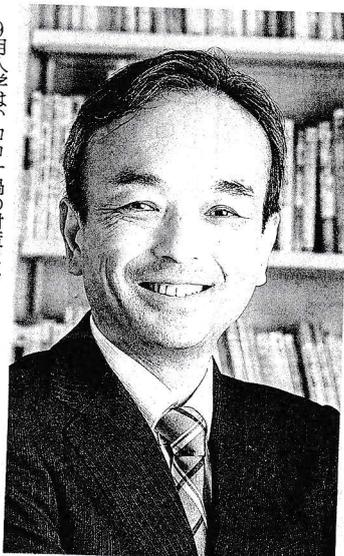
と休校しているわけではなく、予定通り授業を受けている子どもたちがいるにもかかわらずだ。

高校と大学はどこか。大学は学年の始まりは今でも学長が決まれば、9月入学の定員も決められる。今年の高校3年生のために考えるなら、9月入学をもうと増やせばよい。ただ大学は受験料や授業料収入が後ろ倒しになるため、救済策として補助金を出し、減収分を補う必要がある。

もっと高校生活の時間がほしいという生徒が多いなら、臨時的に高校に専攻科や別科を設けることも考えていい。その場合、問題になるのは入試だが、大学入学共通テストを1月と7月の年2回実施すればよい。大学入試センターは大変だろうが、小中学校の9月入学よりは簡単だ。私は実は9月入学・始業に反対ではない。高校生は海外の大学を受けやすくなる。就職時期が遅れ企業が困るという点も、既に新卒一括採用は揺らいでおり、通年採用にすればいい。もしもなら入学時期を毎年少しずらすし、5~10年計画で9月入学まで持っていくには、子どもに大きな影響を与えずにすむかもしれない。

この改革は大変だがかりになる。「平時は難しいが非常時の今だからできる」といっているのではない。国民のよほどの理解がなければできないはずがない。

聞き手 編集委員 氏崎昌也



1965年生まれ。東京大大学院教育学部研究科博士課程満期退学。2001年から千葉大で教え、10年に同大教育学部教授、同大大学長特別補佐などを歴任。現在、同大教育学部副部長と教育学部附属中学校校長。専門は教育方法学、授業実践開発。

9月入学は、コロナ禍の対策としても、将来的な日本の子どもたちにとっても利点が大い。緊急事態が5月末まで延長されたが、学校生活を想像してみよう。

6月から段階的に再開したとして、土曜も授業。猛暑の7、8月に登録して定期試験。夏休みはお盆程度のみ。行事もありません。授業時数がギリギリ担保できる程度。これでは疲れて、不登校も増えかねない。教員の働き方改革にも逆行する。

一方で子どもは休み時間も群れる。社会が動き出せば親からの感染で広がることも考えられ、第2波が来ればまた休校になる。3月までに授業時数を終える計画はいつ破綻するかかわからず、受験生にも影響が出る。

そのうち目先のことだけではなく、長期の教育対策を考えてほしい。主な選択肢は二つだろう。

一つは、「もう教える内容を大幅削減する。ただ特に小6、中3、高3への影響は大きい。4、5月に学校や塾のオンライン授業を進めてきた子どもの入試などの格差も出る。もう一案が年度をずらす9月入学だ。来年9月から実施なら、今年度は残り15カ月余ある。オンライン授業の整備も落ちついていき、冬に第2波が来ても時間的な余裕がある。日本の教育の将来を考えると利点

今年度を15カ月に 余裕ある学び可能

大きい。主要7カ国(G7)はすべて秋入学。留学生を受け入れなければ成り立たないなりつつある日本の大学にとって、春入学で敬遠される事態は避けられ、大学院の試験など様々なことがスムーズになる。日本の子どもたちも世界とつながりやすくなる。校長を務める中学は帰国生が多い。千葉大も学部生に留学を義務づけた。9月入学なら年度途中に入出する必要がなく、6月から始まる海外のサマースクールなども参加できる。

ウイルスが猛威をふるう冬に入試をしないで済む。部活の大会なども、猛暑の夏の開催が避けられる。ただ、表現には、社会全体で乗り越えなければならぬことがある。小1以上は今のままの学年でいいが、来年の小1は4~8月生まれの子どもの学年分含むとしたり、空き教室の活用と教員の確保が必要だ。1年半分に増える学費負担などの補助金は、夏は台風なども来るので、大学入試を6月中実施に。就職も9月採用に……。

東大が秋入学を検討した時、医師や公務員などの試験時期が課題となった。しかし、医学部も国際的な免許に向け教育カリキュラムの改革が進む。現状では、教育学部も含めた実習や資格試験の実施も困難な状況だ。試験時期も見直してはどうか。日本の経済が高齢化で縮んでいく以上、9月入学はいつかは必要になる改革だろう。

聞き手 宮城麻子

◆「9月入学」についてのご意見をお寄せください。edu@asahi.comまたはFAX03・3542・4855へ。

「9月入学」 社会全体混乱させる

フリーライター 菊地 綾子

（北海道 55）
コロナ禍の中、秋から新学期を始める「9月入学」を推進する意見が急浮上しました。私は反対です。

学校は単体で存在しているのではなく、社会全体と深くつながっています。今、私も含めて今日明日の暮らしがままならない人々が大勢いて、さらに先の生活も想像できない状況です。社会全体の活力が失われている中、新しい試みに希望をつなげたい気持ちは理解しますが、「9月入学」には課題が多すぎます。

そもそもコロナ禍の終息時期も現段階では見通せず、緊急事態宣言も

期間延長となりました。世の中が不安定さを増す中での「9月入学」導入は、年度で動く行政や企業にも、

より多大な混乱をもたらします。批判が集中した「アベノマスク」

や10万円の生活補償など、この数か月間、政策の迷走や遅延が目立ちま

す。今、多くの国民が何よりも求めているのは冒険ではなく、安定した

生活です。優先すべきは、知恵と工夫を一つずつ確実に実行に移して

これまでの暮らしと命を地道に守ることに集中すべきではないでしょうか。

為政者には、大局を見据えて、進む道を誤るべからぬという願ひを込めて、進みませう。

入試改革未だ「世界基準」とは

高校生 小林 龍誠

（埼玉県 17）

新型コロナウイルスによる学校再開の先行き不安から「9月入学」を求める声が上がっている。今、高3生の私から言わせれば、今更、入試というゴールラインを遠くに置かれても困る。すっかり忘れられているようにだが、

大学入学共通テスト改革だつて未完なのだ。現時点での「9月入学」導入は入試改革にも更なる混乱をもたらすだけだ。コロナのせいで教育制度が変わるなら、初代の自分たちは「コロナ世

代」とやらの烙印を押されてしまう。

全国知事会の会議でも「9月入学」が話題になり、知事会長は「議論の組立に載せていくことを国に提案できれば」と語ったと報道された。それ

ほど時間に余裕のある知事におかれましては、まずご自分の自治体のコロナ対策に専念していただきたい。

「9月入学」でグローバル化が進むという声もあるが、コロナ禍で弱さをあらわにした今の欧米を前にまだ「世界基準」を求めるのか。それは視野狭窄だとしか言いようがない。